

外国人患者どう受け入れ

室蘭で検討会 製鉄記念病院が事例報告



外国人観光客を医療機関に受け入れる態勢について話し合った検討会

室蘭工業大の外国人留学生などと連携し、医療機関で外国人観光客の患者の受け入れ態勢を整える検討会が26日、胆振総合振興局で開かれた。実際に外国人を患者として受け入れた病院が事例を報告し、参加機関で情報を共有した。

外国人観光客の受け入れでは、室工大の留学生が参加する団体「留学生フレンドシップ」と製鉄記念室蘭病院が7日に業務委託契約を結び、同病院が外国人観光客の患者を受け入れる際、同団体の留学生が有償で入院生活をサポートすることになっている。

検討会では、両者の業務委託に先行して、製鉄記念室蘭病院が今年8～11月に外国人患者を受け入れた事例4件を報告した。

意見交換では、参加者から「頻度は少ないが、ニーズは高い」「留学生では対応が難しい言語もある」「介助や診療行為について留学生による通訳は対象外。医師に責任があり、留学生には行わせず、きちんと練習しななければ負担が大きいの」などの意見が出ていた。

(田島工幸)

検討会は5月22日、7月27日に続いて3回目。胆振総合振興局が主催し、室蘭市医師会や留学生フレンドシップなどから約20人が出席した。